令和４年度 第７回 ＰＴＡ常任役員会（R4.12.8）

高瀬

・ウィズコロナでやってきた２学期が終わろうとしています。
・学習保障を第一に考え、予定していた行事は、すべて無事にやりきることができ、それぞれに大きな成果を上げることができました。が、現在も、全校で常に１０名前後は、コロナ関連の出席停止があります。
・今後も、感染をゼロにすることは難しいと思われますが、その時々の状況を見極めながら「学び残し」が生じないように、学びの機会を保障していきたいと考えています。
・さて、先月、富山市の中学校で女子生徒が自死するという痛ましい事故がありました。背後にいじめまたは人間関係のトラブルがあったとの報道もされていますが、私は「いじめ」は中学校の最重要課題だと考えています。

　いじめに至るまでの過程を「人間関係のトラブル」と言ったり「ケンカ」と呼んだりするのかもしれませんが、子供が集まるところにトラブルや軋轢が生じるのはむしろ必然。人生経験を積んで学習してきたはずの大人であっても、時にトラブルになってしまうことを考えれば、まだまだ人間的に未熟な子供がトラブルを起こすことは当たり前のことです。むしろトラブルを解決し乗り越える経験を通して、望ましい人間関係の築き方を学んでいると言えます。

　その意味で、幼児期から中学入学までに、小さなトラブルやケンカを繰り返して、反省したり仲直りしたりする経験をたくさん積んできたかどうかが、中学校生活に生きてくると思うのですが、そこで、気になるのがコロナ禍による「学び残し」です。３年前の数か月にわたる臨時休校。だれとも会わなければトラブルも起こるはずはなく、学びを先送りしたのはお勉強だけでなく人間関係を築く力もあるかもしれないと思うのです。やっと登校できるようになっても、３密を避けるマスク生活。友達にできるだけ近づくな、給食も前を向いて黙食だと言われれば子供は素直に従うが、人と話したりふれ合ったりする経験なしに人間関係の作り方を学ぶことはできません。小学校では過去２年間、縦割り活動を休止せざるを得なかったとのことですし、中学校の部活動も以前の通り本格的に活動できるようになったのは、やっと今年度からです。

　そんな中で、子供たちは、よりよい人間関係を築く練習が十分にできていないと考えるほうが自然です。全国的に不登校が顕著に増加していることも、このことが原因ではないかと考えられます。

　これは、誰かが悪かったというわけではなく、感染防止のためにそうせざるを得なかったのです。でも、その弊害が出てきてしまっているということなのでしょう。

　２学期、本校でも、多くの人間関係トラブルが発生しています。特に多いのは、毎年のことですが１年生です。月１回実施している「居心地アンケート」に書いてくれたり、担任のところに相談に来たり、仲のよい友達が心配して報告に来てくれたりして、早期対応・早期解決に導いているのですが、その分、担任、学年主任をはじめ学年の先生達は大変です。他のクラスの問題であっても、複数の生徒が関わる事例が多く、学年のチーム体制で対応するので、一つの事例でも学年の先生全員が８時、９時と遅くまで残って保護者対応にあたることが日常のこととなっています。
・今年度、特に多いと感じられるのがＳＮＳを介したトラブルです。互いによい人間関係を

作る力がまだ十分に身についていない状態で、親や先生の目が届かないネット上で悪口を言い合ったり、他の人の写真や自撮り画像を送って拡散されたり、見えないところで、人としてやってはいけないことや危険なことをいっぱいしてしまっています。スマホの操作は上手にできても、この便利な道具を（相手の気持ちを考えて）上手に使えるところまで、思考力・判断力が育っていないのです。

　その結果、ネットトラブルで犯罪に巻き込まれたり、人の心を傷つけて自殺に追い込んだりしてしまうことがある。そんな使い方をすることがわかっていれば、誰も子供に持たせようとは思いません。親はみんな、「うちの子に限ってそんなことするはずがない」と信じて、「みんな持ってるから」という言葉に負けて持たせてしまう。しかし、子供は大人が思う以上に未熟な存在です。いろんな失敗をいっぱいします。何もないと思うのは、たまたま親や先生の目に止まらなかっただけです。

・このようなＳＮＳ上のトラブルの解決に、先生たちは放課後の時間をほとんど取られてしまっています。本来やらねばならない教材研究や個別の補充指導をする時間さえない。部活動に顔を出したくても、トラブルの事実確認や保護者対応が優先されるため、部活指導どころではない、という日が続いています。言わば、先生たちの本来の業務に支障を来しているのです。

・今年度、学校として大きく前進したことがあります。月曜日放課後の１時間を「生徒会タイム」として「生徒の自治活動」の時間を確保し、クラスのリーダー集団による話合い、班長会議を週に１回、定期開催できるようになったことです。行事やテスト等で忙しい時期は時間をとれないときもあるのですが、「クラスの現状を分析し問題点を出し合ってみんなの力で解決する」ことを積み重ね、集団としての力を高めています。この話合いの中で、クラス内に困っている人や悲しい思いをしている人がいないかを点検することこそ最も大切な活動です。今後は毎月１回「自分たちの周りに、本当にいじめはないのか？」を総点検し解決に導く、そして、どうすればいじめを生まないクラスを作れるのかについて考えていく、そのような形に発展させていきたいと考えています。「いじめを生み出しているのが生徒ならば、いじめを止められるのも生徒の力だ」という生徒自治の考えに基づき、生徒自らの力で、この問題に正面から取り組んでいってほしい。そうする中で、自分の周りの人間関係トラブルも、仲間うちで解決する力が育ってくる。ひいては、トラブルを起こさない力、だれとでもよい人間関係を築ける力が育ってくると思うのです。

　学校は、教科を学ぶだけでなく、様々な活動を通して、よい人間関係を学ぶ場所です。子供たちにとって、中学３年間が、かけがえのない学びの時間となるように育てていきたいと考えています。

・保護者の皆様には、中学生がスマートフォンを所持することの意味について考えていただきたいのです。貴重な家庭での学習時間も読書の時間も奪われている、得るものに対して失うものがあまりにも大きいという現実を見極め、できることなら少なくとも高校生になるまではスマートフォンを持たせないという流れを作ることが、子供たちの健全育成にとって大事ではないかと考えます。大人でさえも虜にしてしまうスマホを子供に与え、スマホ中毒にさせてしまうことは、冷静に子供や社会の未来を考えたとき、本当によいことなのかどうか。スマホ所持の意味について保護者の意識を高めることこそ、今後のＰＴＡの最重要課題ではないかと思われます。子供たちの幸せな未来につながる、二度とは戻らない時間を大切にするために考えていただければ幸いです。本日もよろしくお願いします。